

問1 2022年の東京都中央卸売市場における菊の出荷状況において、3月の総出荷量は約3000万本で、そのうち沖縄県産は約1200万本と4割近くを占めています。一方、9月の総出荷量は同程度ですが、沖縄県産はわずか3万本にとどまっています。このように、沖縄県が冬から春にかけての出荷に特化している理由として、経済的な背景をふまえて説明したものを選びなさい。

(2024年 広島公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 冬の温暖な気候を利用して暖房費などの生産費を抑えることで、遠方の消費地へ運ぶための高い輸送費を補い収益を上げている。 | 2. 夏の台風被害を避けるために冬の栽培に特化しており、余った労働力を夏場はサトウキビ収穫に集中させることで生産費を下げている。 | 3. 本州の農家に比べて土地代が圧倒的に安いと、大規模な農地で生産を行うことで、輸送費の差を考慮しても十分な利益が出る仕組みになっている。 | 4. 冬場は航空運賃が安くなるため、その時期に合わせて集中的に出荷を行うことで、生産費と輸送費の合計を最小限に抑えている。 |
|---|--|---|---|

問2 鹿児島県において、豚の飼育頭数が全国第一位となるなど、畜産業が地域を代表する産業へと発展した背景として、土地の性質に触れた説明として最も適切なものはどれか。(2019年 三重公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 火山灰層が厚く堆積したシラス台地は、水はけが良すぎて稲作に不向きであったため、乾燥に強いサツマイモの栽培や、広い土地を必要とする家畜の飼育が選ばれた。 | 2. 水はけの悪い低湿地が広がっているため、土地改良を繰り返すことで牧草の生育を促し、乳牛を育てる酪農を中心とした産業構造へと変化した。 | 3. 険しい山地が多く平地が限られているため、山の斜面を切り開いた段々畑を作り、そこで得られた飼料を用いて小規模な畜産業が行われるようになった。 | 4. 海岸沿いに広がる砂丘地帯を大規模に開発し、塩害に強い特性を持つ家畜を専門的に育てるための施設が集中した。 |
|--|--|--|---|

問3 筑紫平野において、同一の耕地で一年のうち米と麦を交互に栽培する「二毛作」を可能にしている背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。(2025年 京都公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。 | 2. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるため、収穫時期を大幅に早める必要があるため。 | 3. 化学肥料や大規模な農業機械を導入することで、土壌の養分を短期間で回復させるため。 | 4. 海外からの輸入農産物に対抗するため、米の生産を休止して小麦の専門農家へ転換するため。 |
|---|---|---|---|

問4 北九州市の産業と人口の推移について述べた次の文のうち、1980年代以降の統計的な傾向を正しく説明しているものはどれですか。(2015年 兵庫公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---|---|
| 1. 製造品出荷額に占める鉄鋼業の割合が大幅に減少し、人口も減少傾向にある | 2. 製造品出荷額において機械工業が消滅したため、急激な人口増加が起きた | 3. 再開発によって鉄鋼業が復活し、製造品出荷額が1980年以前の水準を超えた | 4. 人口は1980年以降も一貫して増加し続け、鉄鋼業の出荷額も伸び続けている |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---|---|

問5 沖縄県の竹富町などに見られる伝統的な家屋では、家の周囲を石垣で囲み、防風林を植え、さらに屋根瓦をしっくい固めるといった工夫が見られます。このような独自の住居様式が発達した理由として、最も適切なものはどれですか。(2016年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 夏から秋にかけて接近・上陸する台風による強風の被害を防ぐため | 2. 地震が発生した際に、振動による建物の倒壊や屋根瓦の崩落を防ぐため | 3. 近隣の火山が噴火した際に、降り積もる火山灰の重みに耐えるため | 4. 冬に吹く冷たくて強い季節風を遮り、屋内の温度を一定に保つため |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|

問6 屋久島などの世界自然遺産登録地で見られる、地域の自然環境や生態系の保全を図りながら、その価値を観光客が体験し学ぶことで、地域の持続可能な発展を目指す観光の形態を何と称しますか。(2025年 和歌山公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|--------------|------------|-------------|
| 1. エコツーリズム | 2. グリーンツーリズム | 3. マスツーリズム | 4. バリアフリー観光 |
|------------|--------------|------------|-------------|

問7 高度経済成長期の日本において、北九州市などの工業地帯を中心に発生した、工業化に伴う環境破壊を総称して何と呼びますか。また、その主な内容を説明したものとして適切なものはどれですか。(2017年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 公害：工場から排出される排煙による大気汚染や、排水による水質汚濁などのこと。 | 2. 地球温暖化：化石燃料の使用によって二酸化炭素が増加し、地球全体の気温が上昇すること。 | 3. 自然災害：台風や地震などの自然現象によって、建物や人命に直接的な被害が出ること。 | 4. ヒートアイランド現象：都市部の建物やアスファルトの影響で、周辺部より気温が高くなること。 |
|---|---|---|---|

問8 九州南部の地図において広範囲に描かれる、過去の火山活動による噴出物（火山灰など）が厚く積み重なって形成された台地状の地形を何と呼びますか。(2020年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|--------|--------|---------|
| 1. シラス台地 | 2. 扇状地 | 3. 三角州 | 4. カルデラ |
|----------|--------|--------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 冬の温暖な気候を利用して暖房費などの生産費を抑えることで、遠方の消費地へ運ぶための高い輸送費を補い収益を上げている。	沖縄県は東京などの大消費地から遠いため、出荷の際の輸送費が他県よりも高くなるという不利な点があります。しかし、冬でも温暖な気候を活かせば、ビニールハウスを温めるための燃料代（生産費）を大幅に節約できます。この「節約できた生産費」によって「高い輸送費」を相殺し、他地域との競争力を保っています。9月の出荷が少ないのは、他地域でも暖房なしで生産が可能になり、沖縄の優位性がなくなるためです。
問2	答え 1 火山灰層が厚く堆積したシラス台地は、水はけが良すぎて稲作に不向きであったため、乾燥に強いサツマイモの栽培や、広い土地を必要とする家畜の飼育が選ばれた。	鹿児島県の大部分を占めるシラス台地は、多孔質の火山灰から成るため、水分が地下に浸透しやすく、水田に必要な水を蓄えることが困難でした。この自然環境に適応するため、伝統的にサツマイモ（飼料用を含む）の栽培が行われ、それを餌とする豚などの畜産業が大規模に展開されるようになりました。現在、鹿児島県は豚、肉用牛ともに全国有数の生産地となっています。
問3	答え 1 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。	二毛作が行われる大きな理由は、限られた耕地からより多くの収益を得るための土地の高度利用にあります。九州北部の筑紫平野は、冬でも比較的温暖で積雪が少ないため、水稻の収穫後に麦を育てる「裏作」が可能となります。クレーク（人工の水路）が発達し、水管理の技術が向上したことも、このような集約的な農業を支える要因となっています。
問4	答え 1 製造品出荷額に占める鉄鋼業の割合が大幅に減少し、人口も減少傾向にある	北九州市の統計を見ると、1980年をピークに人口は減少に転じています。産業面では、かつて圧倒的なシェアを誇った鉄鋼業の製造品出荷額が大幅に減少する一方で、自動車産業などの機械工業が一定の割合を占めるようになり、産業の主役が交代している様子がうかがえます。これは日本の多くの地方都市が直面している、産業構造の転換と人口減少という共通の課題を反映しています。
問5	答え 1 夏から秋にかけて接近・上陸する台風による強風の被害を防ぐため	沖縄県や九州地方は、地理的に北西太平洋で発生した熱帯低気圧である台風の進路にあたりやすく、古くから強風や大雨による被害を受けてきました。特に強い風から家屋を守るため、風を遮る石垣や防風林を設けたり、風で瓦が飛ばされないようにしっかりと固定したりするなどの知恵が、生活文化の中に根付いています。地震や火山灰への対策、または冬の季節風対策は、この地域の伝統的な家づくりの主目的ではありません。
問6	答え 1 エコツーリズム	自然環境を壊して観光開発を進めるのではなく、地域の生態系を保護しながら、その魅力を観光資源として活用する仕組みを指します。観光客に自然の大切さを学んでもらうことで、環境保護と地域振興の両立を図るのが特徴です。
問7	答え 1 公害：工場から排出される排煙による大気汚染や、排水による水質汚濁などのこと。	急速な工業化が進んだ時期、適切な対策が取られないまま工場から有害物質が排出されたことで、健康被害や生活環境の悪化を招く「公害」が全国で発生しました。特に北九州市では、石炭や鉄鋼などの重工業が盛んだったため、排煙による大気汚染や、工場排水による水質汚濁が深刻な社会問題となりました。これらは人間の経済活動によって引き起こされたものであり、自然現象による災害や、地球規模の環境変化とは区別されます。
問8	答え 1 シラス台地	九州南部、特に鹿児島県から宮崎県にかけて広がるこの地形は、大規模な噴火によって噴出された火砕流堆積物などがもとになっています。白っぽい色をしていることからその名がつけました。水はけが非常に良すぎるという特徴があり、大規模な水田開発が難しかった歴史背景があります。